



分科会名： Vision to Connect分科会

COI-NEXT 東北大学 拠点

「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワメント社会共創拠点

- リーダー機関：東北大学
- 代表者名：中澤 徹（プロジェクトリーダー/東北大学）
- リーダー名：市川 陽一（副プロジェクトリーダー/第一生命保険株式会社）
各研究課題リーダー：高橋 政代（立命館大学）、安田 聡（東北大学）、吉田 浩（東北大学）
- 拠点アドバイザー：永富 良一（東北大学 未来社会健康デザイン拠点 拠点長）



10~20年後の未来のありたい社会像

誰もが人生のどのステージでも、共に暮らし、働き、遊べることで、主体的に生き生きと暮らせる社会



3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう
8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国々の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう

ビジョン達成のためのターゲットの設定

社会課題



身体機能低下による
社会/コミュニティの分断

ターゲット 1

「できない」を「できる」にする情報格差ゼロ社会の設計
インクルーシブ・ユニバーサルな社会への変容



視覚障がい者がテクノロジーで「みえる」から自立できる

医療課題



早期発見、早期介入
できなかったことへの後悔

ターゲット 2

目から全身の健康を管理する「みらいをなおすヘルスケア」の確立
後悔する人がいなくなる仕組みを社会に実装



健常人のQOLが低下する病気のリスクが「みえる」から予防できる

自分課題



自身の思い込みによる
行動制限

ターゲット 3

身体機能拡張による自己実現とコミュニケーション変革
主体的な行動変容を起こす仕掛けを社会に実装



行動変容に必要なことが「みえる」から変わる

「みえる」からはじまるエンパワーメントで、人とのつながりと自己実現を達成

ターゲットに対する各研究開発課題

ターゲット1

「みえる」から自立できる

ターゲット2

「みえる」から予防できる

ターゲット3

「みえる」から変わる

ターゲット1・2・3

ターゲット2・3

ターゲット2・3

ターゲット1・2・3

研究開発課題 1

「できない」を
「できる」にする
支援の仕組み開発

- 支援技術 (AIロボット)
- 身体機能補完
- 情報共有システム



研究開発課題 2

目から全身の健康
に挑む未来型健診
の仕組み開発

- 未来型健診
- ヘルスケアエビデンス構築



研究開発課題 3

誰も後悔させない
視機能維持の仕組
み開発

- 日常動線の階層化システム
- インセンティブ設計



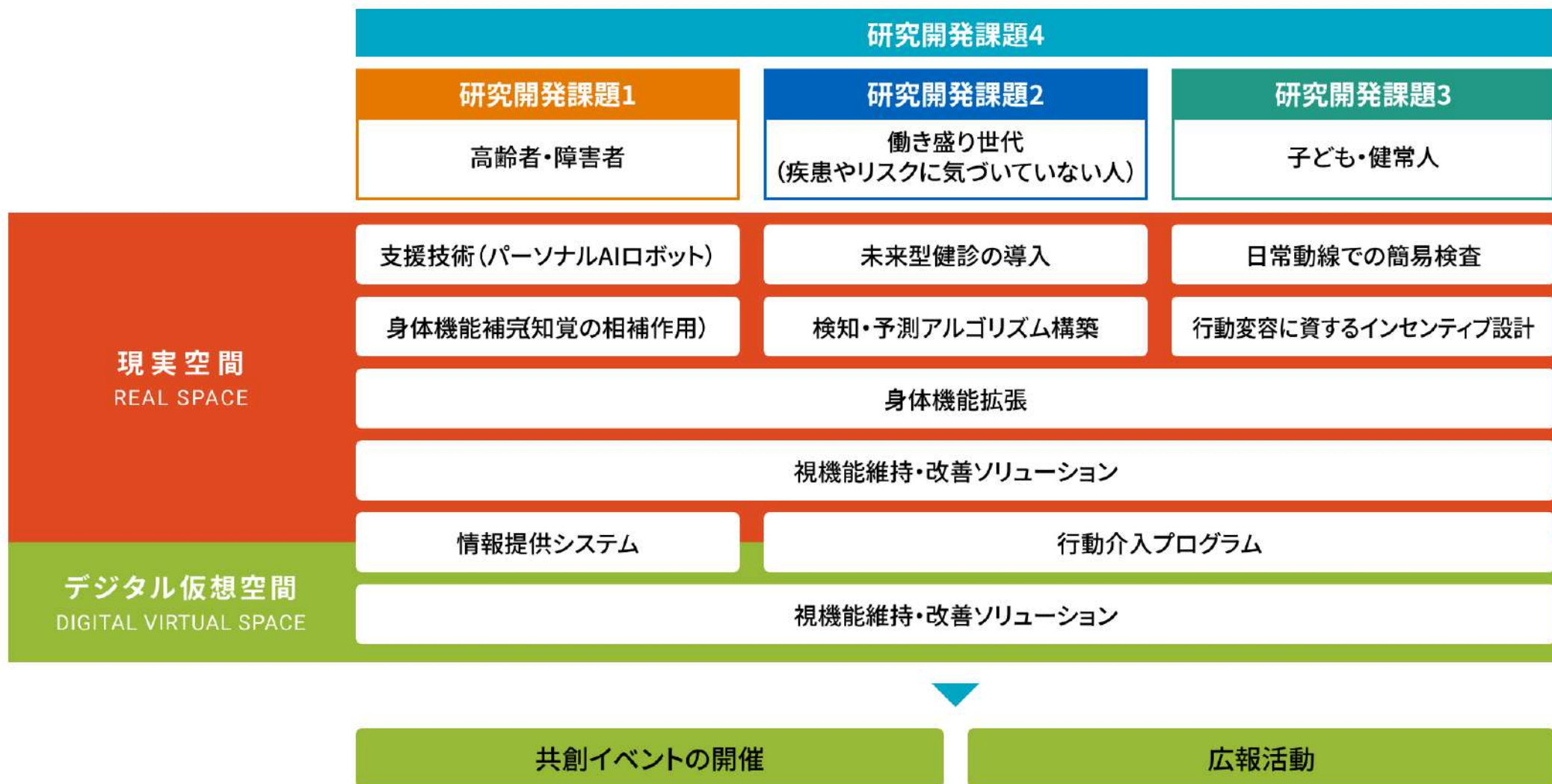
研究開発課題 4

意欲を最大化する
行動変容の仕組み
開発

- 身体機能拡張
- 視機能維持
- アバター対話システム



プロジェクト体制図



大学

東北大学（代表機関）

お茶の水女子大学、東京大学、東北文化学園大学、立命館大学

企業

あいおいニッセイ同和損保、あっと、イオン、Wellier、NECソリューションイノベータ、エレコム、オムロン サイニックエックス、カゴメ、クリュートメディカルシステムズ、QDレーザ、Gamewith、興和、参天製薬、東日本旅客鉄道、ジョンソン・エンド・ジョンソン、住友商事、千寿製薬、仙台放送、SUNITED、ジャパンソウル半導体、第一生命、トーマーコーポレーション、トプコン、トプコンヘルスケア、トラストメディカル、日東メディック、日本眼科医療センター、NEXT VISION、ノバルティスファーマ、ハウディ、ViXion、ビーライン、フォーネスライフ、LivelyUp、ロート製薬、わかさ生活、わかもと製薬

自治体

大崎市、仙台市、富谷市、宮城県

※2024.2.27時点

5か年計画



研究開発課題	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	最終年度
1. 「できない」を「できる」にする支援の仕組み開発	既存補助器具の活用拡大・インセンティブ設計とフィールド導入		支援AI・ロボット・デバイス装置の開発		10万人以上への情報提供		神戸・仙台での実装とグローバル展開		情報格差ゼロ社会の設計	
2. 目から全身の健康に挑む未来型健診と早期予防介入の仕組み開発	眼底検査から健診フィールドでのハイリスク群抽出アルゴリズム検証・デジタルコホート開始、自治体連携開始		PDSデータとの統合による精度向上・Algorithm as a Service(AaaS)展開による収益化・疾病リスク低減メニュー開発		心疾患・認知症の検知率10%向上・健保組合向けビジネスへ導入・高度化		健診モデルの普及拡大（100以上の施設）・個別化介入・導入自治体の拡大（未来型健診の実現）・アジア圏展開・眼底写真を活用した新たな保険商品組成		「みらいをなおすヘルスケア」の確立	
3. 誰も後悔させない視機能維持の仕組み開発	商業施設への導入・簡易測定機器とアプリを活用した実態調査の開始		測定場の常設・運営、個別診断のPOC取得、アジア拠点の設立準備開始		緑内障の受診勧奨100%、アプリ追跡による受診率50%		病院以外のアクセスポイント50施設 オンライン診療含む 測定場5施設（国外含む）		自己実現とコミュニケーション変革	
4. 意欲を最大化する行動変容の仕組み開発	動体視力等の視機能向上に資する行動変容システムの基盤構築		視機能改善のエビデンス構築 行動変容基礎システムの効果検証		システム構築により10万人の行動変容の経済効果の検証		健康指数の改善と事業性・経済性を加味した行動変容システムとしての実装		自己実現とコミュニケーション変革	

ターゲット1の実現

ターゲット2の実現

ターゲット3の実現